

# 令和6年度 笠松中学校研究構想図（3年目/3年計画）

**学校の教育目標**  
**たくましく**  
**未来を切り拓く**  
**生徒の育成**

【学校の教育目標を具現した生徒の姿】  
主体的に学習に取り組み、確かな学力をもった生徒  
仲間への思いやりをもち、主体的に仲間と協力できる生徒  
心身ともにたくましく、主体的に目標に向かって努力できる生徒

## ＜研究主題設定時における生徒の実態＞

○教師の指示に対して、言われたことは、最後までやりきろうとすることができる。

- 基礎的・基本的な技能が身に付いていない生徒や、自ら考え、仲間と共に学び合うことで考えを広げたり深めたりすることが苦手な生徒がいる。
- 願いや見通しをもって学習に取り組む姿や、授業で学んだことを、他の学習や生活に生かすことに弱さがある。

## ＜令和4年度及び5年度における成果と課題＞

- ・12月に実施した自校評価では、視点A及びBは96.3%、視点Cは90.6%の職員が意識的に実践したと回答した。職員間で研究を推進しようとする意識が浸透したと考えられる。
- ・2月に実施した生徒アンケートでは、94%の生徒が課題の必要性を感じ、90%の生徒が単元を意識して学習に向かっていると回答した。また、同アンケートから、仲間と交流しながら考えづくりをしているが、考えを仲間に説明できていないと考えている生徒が多いことや、他の人と意見が異なる場合に、納得するまで議論したり、自らの考えを説明したりすることができないと考えている生徒が多いことが判明した。
- ・若手教員の割合が多く、教科指導における基礎・基本等を学びたいと考えているが、業務の多様化や職員構成等の要因から、学ぶ機会（ベテラン職員から教えてもらう機会）が少なかった。
- ・個人では実践していたものの、研究同人の実践から学んだり、学校全体としての進捗や課題等を確認したりする機会が少なかったため、学校全体で取り組んでいるという意識が低かった。
- ・主体性を生み出すことを目指しているが、公表会や最高の授業交流会において、生徒自身が目を輝かせ「私たちのこの姿を見て欲しい」と求めてくる姿が乏しかった。

## 研究主題

**一人一人に確かな学力が身に付く授業づくり**

**～学びの必然性を生み出し、課題解決に向けて主体的に取り組む授業の創造～**

### ＜確かな学力とは…＞

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、それらを活用して自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力

### ＜主体的に取り組む姿とは…＞

- ・学ぶことに、興味関心をもつ姿
- ・課題意識をもち追究する姿
- ・見通しをもって粘り強く取り組む姿
- ・根拠や筋道を明確にして話すことができる姿
- ・意見を出し合い、分からないことを追究する姿

### ＜研究仮説＞

学習内容と将来や社会とのつながり、生徒の学びの連続性を明らかにした単元構想図の工夫、必然性のある課題提示、主体的な学びを生み出す指導・援助の在り方を工夫すれば、主体的な学びが生まれ、生徒一人一人に確かな学力が身に付くだろう。

## 研究内容

### 視点A 単元構想図の工夫

- (1) 単元における学習内容と将来や社会とのつながりの明確化
- (2) 学びの連続性の明確化

### 視点B 必然性のある課題化

- (1) 生徒が学ぶ意欲をもつことができる魅力のある導入の工夫
- (2) 本時「どのような力を付けるのか」「何を考えたり深めたりするのか」生徒が分かる課題設定

### 視点C

### 主体的な学びを生み出す 指導・援助の在り方

- (1) 個のつまずきに応じた指導・援助の工夫
- (2) 集団への指導・援助の工夫

**重点的に**

## ＜具体的方途＞

- **指導・援助の工夫の具体を明確にする**→教科部会における検討と実践のサイクル化
- **研究同人の実践を知る機会を増やす**→校内授業研究会の実施、実践報告会の実施、研推だよりの発行
- **若手教職員が学ぶ場をつくる**→校内勉強会の実施（メンター会議と連携を図る）
- **生徒と教職員が意識を共有する**→学習委員会との連携し、生徒の意識に根差した最高の授業づくりを実践  
学習ステップ表を活用し、学び方の基礎づくりを全職員が同一歩調で実践